

## 【民法】

**問題1** 次の事例を読んで、各小問に解答しなさい。特に指示がない限り、判例に照らして解答しなさい。

(事例)

Aは、Bから覚醒剤を海外から密輸し、それを国内で販売することで利益を上げることを持ちかけられた。Bによれば、Bには覚醒剤の生産国に協力者が存在しており、密輸の手段についても手配が済んでいるが、費用が不十分であるので100万円の出資をすれば、もうけをAが4、Bが6の割合で分配することを持ちかけられた。当初Aはこの話に乗り気であったが、この話を偶然知ったAの父親が猛反対し、さらに父親から話を聞いたAの妻も反対するので、Aはあきらめることにして、Bにこの話から手を引くと伝えた。話を聞いたBは、Aが出資しないことは了解したものの、対応を誤るとB自身の命もあぶなくなるから、せめて渡航費用を貸して欲しいと言うので、Aは当該費用(以下「本件費用」とする)として20万円につき、期限を定めずに貸与した。その後、Aは、利息年1割と定めた借用書を作成し、Bに捺印をさせた。

一方、Bの父親は、食品衛生法の許可を受けて、食肉の販売を業とするC社を経営していた。CはDから精肉を購入した上、精肉加工品を製造し、販売していたが、しばしば代金の支払いが滞りがちであったため、Dから取引を拒絶されていた。Aとの密輸計画の失敗により金に困っていたBは、自分が買主になるとしてDに取引の再開を求めたところ、DからB所有の自動車に担保を設定することを求められ、これに応じて根抵当権を設定した上で、取引が再開されることになった。BD間では、6ヵ月にわたり、取引が行われ、当初の2ヵ月分についてBはAから借りた渡航費用を充てるなどして、代金(以下「本件代金」とする)を支払っていたが、その後代金を支払うことができなくなった。Bが食品衛生法上必要とされる営業許可を受けていなかったことも判明したので、DはBとの取引を中止し、未払代金は40万円になっている。

小問

- (1) Bが本件費用を返す様子がないので、Aは訴えを提起しようと考えている。Aの返還請求に対し、①Bはどのような反論をすることが考えられるかを示した上で、②Aの請求が認められるか、解答しなさい。

- (2) Bが本件代金を支払わないので、Dは代金支払いを求めて、訴えを提起しようと考えている。Dの代金支払請求に対し、Bは本件取引の無効を述べてこれを拒絶しようとしているが認められるか。①Bの反論の根拠をあげなさい。②Bの反論を踏まえて、Dの代金支払請求は認められるか、解答しなさい。

**問題2** 次の事例を読んで、各小問に解答しなさい。

(事例)

Aは、平成28年12月1日、Bの運転する普通乗用車によってはねられて死亡した。AのBに対する損害賠償額は、合計金6,000万円であることに争いはない。Aには債務はなく、Aは時価3,000万円相当の甲土地を所有していた。Aの妻は数年前に死亡しており、Aの子は戸籍上CとDだけである。なお、次の各小問はそれぞれ独立しているものとし、遅延損害金等は考慮しなくてよい。

小問

- (1) C、Dは、それぞれBに対してどのような請求をなしうるか判例に照らして解答しなさい。
- (2) Aには、妻以外の女性Eとの間にもうけた子Fがいることが判明しているが、FがBに対して損害賠償請求を行うためには、どのような法的手段を執ることが必要か解答しなさい。
- (3) CとDは、Aに妻以外の女性Eとの間にもうけた子Fがあることを知らずに、Bから損害賠償額をそれぞれ受領し、また、甲土地に関する遺産分割協議を行って甲土地はCが取得した。その後FがAとの間に父子関係があることを裁判で確定させた場合、FはCDに対してどのような請求をなしうるか解答しなさい。
- (4) Cは、Dとの遺産分割協議によって甲土地を取得し、甲土地を友人Gに対して売却することとして売買契約を締結したが、その後甲土地を妻以外の女性Eに遺贈する旨のAの自筆証書遺言が発見された。この場合に、甲土地に関してEとGはどのような関係に立つか判例に照らして解答しなさい。